

式 辞

光輝く北摂の山々から吹き下ろされる柔らかな風に、希望に満ちた春の訪れを感じる今日の良き日、今、ここに卒業証書を授与された

「268名」の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

皆さんは、本日、義務教育の九ヶ年の課程を無事に修め、人生で最も多感な時期ともいわれる「中学生時代」に別れを告げようとしています。

今年も「新型コロナウイルス感染拡大防止」のため、ご来賓や保護者の皆様のご臨席が制限される中での式とはなりましたが、皆さんが今、手にされた卒業証書は、「命の尊さ」や「健康のありがたさ」をあらためて知る、通常の卒業式以上に「価値」と「重み」があるように思えてなりません。あらためて心からおめでとう。

思い起こせば3年前、ちょうど新型コロナウイルスの感染が広まりかけた時期、皆さんは中学生となりました。あれから3年。皆さんの中学校生活はまさにコロナとともに過ごしてきた3年間でした。

6年生の3学期、3月の上旬から突然の休校措置が始まり、そのまま4月へ。クラス発表や課

題の配布など短時間の登校はあったとはいえ、4月・5月と休校は続き、分散登校や時差登校を経て、ようやく全員が揃って入学式を迎えたのは2ヶ月遅れの6月15日でした。

覚えていますか。ステージの上には桜の花ではなく、早咲きの黄色いヒマワリが皆さんの入学を祝ってくれました。

その後も行事の中止や縮小、授業の中でのさまざまな制限、そう、お弁当もとうとう班でおしゃべりをしながら食べることはありませんでした。まさにコロナとともに過ごした3年間。マスクと一緒に生活をした3年間でした。

しかし、そんな日々を乗り越えてきたあなたたちだからこそ、今日の皆さんは、例年以上に「たくましく」「大きく」「立派に」成長されたことを感じます。

今、私は、皆さんとの色々な思い出が次から次へと頭の中をめぐり、あなたたちからもらった、たくさんの感動を改めてかみしめています。皆さんは、長きにわたる歴史のあるこの「養精中学校」の素晴らしい数々の「良き伝統」を立派に継承してくれました。

教育目標である「自学実践」。このことを正に体で示してくれた皆さんの、一つ一つの場面を思い起こすにつけ、胸が熱くなるほどの感謝の

気持ちで一杯です。本当にありがとう。

さて、3日前の3月11日。「東日本大震災」の発生から12年目を迎えました。今、日本中を興奮の渦に巻き込んでいる「WBC」「ワールド・ベースボール・クラシック」に出場している佐々木朗希投手を皆さんはご存じでしょうか。

岩手県陸前高田市出身の現在21歳。去年は、プロ野球史上最年少での完全試合の達成や、世界記録となる13人連続で三振を奪うなど、「令和の怪物」と言われるほどの偉大な選手です。

その佐々木投手は、小学校3年生の時に野球を始めましたが、それから1年も経たない2011年3月11日、東日本大震災に見舞われました。津波で自宅が流され、祖父母を亡くし、いつも一緒にキャッチボールをして、野球の楽しさを教えてくれた当時37歳だったお父さんも亡くされました。

野球をしていたグラウンド、通っていた小学校、思い出が詰まった景色はすべて様変わりをしてしまう中、移り住んだお隣の大船渡市で、中学校進学後も仮設住宅が並ぶグラウンドで野球を続けたといいます。

精神的にどん底に突き落とされた中から、努力を積み重ね、まさに這い上がったのです。そして、頭角を現し始めた中学3年生で、私立の

野球強豪校からの誘いがある中、地元の公立高校である岩手県立大船渡高校に進学しました。その時彼は「地元の仲間と一緒に甲子園に出場したかったから。」と言ったそうです。

震災というとても辛い経験を乗り越え、仲間を大切にし、ふるさとを大切にする佐々木投手。つい3日前の3・11。この日のWBCで先発投手として出場し、8つの三振を奪い、勝利投手として故郷の皆さんの特別な日に再び勇気を与えた佐々木投手。彼はインタビューでこう話していました。「小学生や中学生の頃、避難生活で心が折れそうになったとき、野球をしている時が一番楽しかった。夢中になれる時間があっただおかげで、辛い時も頑張れた。これからは自分が勇気や希望を与えていきたい。」と。

簡単な言葉ですが何と奥深い言葉なのでしょう。

「人」の人生は順風満帆ではありません。時には思いがけない出来事や、不本意な結果に終わることもたくさんあります。むしろそういったことの方が多いのが人生といっても過言ではありません。

しかし、皆さんには、この佐々木投手のように、何か一つでも夢中になれるものを見つけ、常に前

向きに、可能性を信じてチャレンジすることを忘れずに歩み続けてほしい、と心から願っています。

それでも、もし、厳しい現実の前に、明日(あす)への希望を失いそうになった時には、少し休んで、母校であるこの養精中学校で仲間と過ごした日々を思い出してください。

そこには懐かしい友の笑顔があり、「しんどいのはあなただけとちゃうよ。一緒に前向いてガンバロ!」と、励ましてくれる仲間がきっといるだろうと思います…。

仲間を大切にし、自分を大切にし、一生懸命に過ごしたこの「学び舎」をいつまでも忘れることなく、これからも命を大切に、健康に留意し、自分に誇りを持ち、周りの人への感謝と思いやりを忘れずに、まっすぐに「夢」を追い続ける人生を送ってください。皆さんの人生に幸多かれと、心から応援しています。

また、皆さんのことを、いつも見守り続けてくださったご両親やご家族をはじめ、多くの方たちの支えに対し、感謝の気持ちを忘れず、今一度、決意を新たに、新しい道へと進んでください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまでの数々の

ご苦勞を思い起こされたとき、大きな節目を迎えられた今日のこの日の喜びは「感慨ひとしお」のことと、拝察申し上げます。本校の教育活動に至らぬ点もあったかとは存じますが、三年間、変わらぬご支援とご協力を賜りましたことに、高いところからではございますが、あらためて心から厚く御礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。結びになりますが、皆さんの輝かしい未来を心から祈念しながら、皆さんへ送る「最後のなぞかけ」を述べ、学校長の式辞といたします。

「皆さん一人ひとりのこれからの人生」とかけてまして「満塁ホームランを2回打った時」とときます。

そのココロは

「発展(8点)間違いなしでしょう！」

どうぞお元気で!! おめでとう!!

令和5年(2023年)

3月14日

茨木市立養精中学校

校長 磯村 昌宏